

稲わら・もみ殻の早期秋すき込みをしましょう！

令和3年10月12日
加須農林振興センター

近年の出穂期から登熟期間における高温条件は、後期栄養不足や活力低下による登熟不良を招き、品質低下の大きな要因になっています。

また、近年、台風や爆弾低気圧等の影響により、稲刈り後の稲わらやもみ殻が田や用排水路、道路に流出・散乱するなどの被害が発生しています。さらに、燃やした場合は、煙の害が懸念されます。

そのため、稲収穫後、土づくりと大雨や台風の襲来に備えてできる限り速やかに耕うんし、稲わらやもみ殻をほ場にすき込みましょう。



令和元年台風19号による稲わら流失

【稲わら・もみ殻の早期秋すき込み】

稲わら等を分解する土壌微生物は、地温が15℃以上で活動が活発になるとされており、早期にすき込むことによって土壌内での分解が促進されます。

すき込みは、収穫後できるだけ早く行い、遅くとも10月下旬までに実施してください。秋にすき込むことによって、春先のすき込みによるワキ（硫化水素、メタンガス）の発生が抑えられ、根腐れ等、稲の生育障害を軽減することができます。



稲刈り直後にすき込みを行う様子

【早期すき込みは雑草や病害虫の予防にも】

「クログワイ」や「オモダカ」などの厄介な水田雑草の塊茎を土壌表面に露出させることにより、冬場の低温や乾燥で死滅させる効果も期待できます。

ヒメトビウンカやカメムシ類の害虫越冬場所の稲株をなくす効果もあります。

また、「スクミングゴカイ（ジャンボタニシ）」の貝を粉砕する効果が期待できます。

【暗渠栓管理】

収穫・すき込み作業が終了したら早急に暗渠栓の閉栓を行い肥料分の流亡を防止しましょう。